

図表 1 3 1 景気循環局面との一致率 九州

	ケース 1		ケース 2		ケース 3		ケース 4	
	後退	拡張	後退	拡張	後退	拡張	後退	拡張
91/4-93/9	96.7%		90.0%		93.3%		93.3%	
93/10-97/4		83.7%		86.0%		83.7%		83.7%
97/5-98/12	80.0%		85.0%		95.0%		95.0%	
99/1-00/9		95.2%		95.2%		95.2%		95.2%
00/10-02/3	77.8%		77.8%		77.8%		77.8%	

図表 1 3 2 景気循環局面との一致率 沖縄

	ケース 1		ケース 2		ケース 3		ケース 4	
	後退	拡張	後退	拡張	後退	拡張	後退	拡張
91/4-93/9	50.0%		53.3%		56.7%		63.3%	
93/10-97/4		65.1%		53.5%		51.2%		67.4%
97/5-98/12	80.0%		75.0%		75.0%		70.0%	
99/1-00/9		66.7%		66.7%		71.4%		57.1%
00/10-02/3	61.1%		61.1%		61.1%		38.9%	

(3) 景気基準日付との先行・遅行関係

先の一致率同様に内閣府による景気基準日付を用い、管内別地域 CI について先行・遅行月数を求めた。景気基準日付の山あるいは谷を含む前後 6 ヶ月間に CI がピークあるいはボトムをつけた月を記したのが次頁以降の図表である。例えば「+4」とある場合は、景気基準日付に 4 ヶ月遅れてピークあるいはボトムをつけたという意味である。また、ケースごとに平均と標準偏差を求めているが、平均が 0 に近いほどその CI の一致性が高いということであり、標準偏差が小さいほど CI と景気局面との関係が安定的であることを意味すると考えられる。

管内別にみえていくと、まず北海道ではケース 1 で平均が -0.8 と最小であるが、標準偏差は最大となっている。ケース 3 (ケース 4 と同一) は常に先行気味であるが、標準偏差はその分やや小さくなっている。東北ではケース 3 とケース 4 で一致性が高くなっており、標準偏差にもケース間であまり差がない。関東ではケース 3 で平均が最小だが、標準偏差がやや大きく、総合的にはケース 1 が優れているように見える。東京ではケース 1 で一致性が高いが、標準偏差はやや大きい。ケース 4 では先行気味であるものの標準偏差が目立って小さくなっている。信越は 97 年 5 月の山を除いてケース間に差が全くない。北陸もケース間にあまり差がないが、ケース 3 と 4 でやや平均が小さくなっている。東海では、ケース 1 の「安定的な」遅行性がやや目立っている。ここではケース 4 の一致性が最も高くなっている。近畿は平均、標準偏差ともにケース 1 が最小である。中国では、平均には大きな差がないものの、ケース 4 で標準偏差が目立って小さくなっている。四国はケース 4 で +0.5 と平均が小さくなっているが、標準偏差は最大であり景気局面との関係が安定的でないことが窺われる。九州はケース 1 が平均、標準偏差ともに最小である。沖縄はケース 4 で平均が最小となっているものの、どのケースも景気との関係が安定的でない結果となっており、これは地域性によるものとみられる。

図表 1 3 3 ケース別 先行・遅行月数 (北海道、東北、関東、東京、信越、北陸)

北海道				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	+3	-2	-2	-2
1997年5月 山	-5	-5	-5	-5
1999年1月 谷	-3	-1	-1	-1
2000年10月 山	+2	+2	0	0
平均	-0.8	-1.5	-2.0	-2.0
標準偏差	3.9	2.9	2.2	2.2

東北				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	-1	-3	+2	+2
1997年5月 山	-2	-2	-2	-2
1999年1月 谷	-3	-2	-2	-1
2000年10月 山	+2	+2	+2	+2
平均	-1.0	-1.3	+0.0	+0.3
標準偏差	2.2	2.2	2.3	2.1

関東				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	+4	+4	+4	+5
1997年5月 山	-2	-5	-5	-2
1999年1月 谷	+1	+5	0	-1
2000年10月 山	+2	+2	+2	+3
平均	+1.3	+1.5	+0.3	+1.3
標準偏差	2.5	4.5	3.9	3.3

東京				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	+2	+2	+2	-4
1997年5月 山	-4	-5	-5	-2
1999年1月 谷	0	-3	-1	-1
2000年10月 山	+2	+2	0	-2
平均	+0.0	-1.0	-1.0	-2.3
標準偏差	2.8	3.6	2.9	1.3

信越				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	-3	-3	-3	-3
1997年5月 山	-3	-2	-2	-2
1999年1月 谷	0	0	0	0
2000年10月 山	+2	+2	+2	+2
平均	-1.0	-0.8	-0.8	-0.8
標準偏差	2.4	2.2	2.2	2.2

北陸				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	+2	+4	+2	+2
1997年5月 山	-2	-2	-2	-2
1999年1月 谷	+1	0	0	0
2000年10月 山	+4	+3	+4	+4
平均	+1.3	+1.3	+1.0	+1.0
標準偏差	2.5	2.8	2.6	2.6

図表 1 3 4 ケース別 先行・遅行月数 (東海、近畿、中国、四国、九州、沖縄)

東海				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	+4	+2	+2	0
1997年5月 山	+2	-2	-2	-2
1999年1月 谷	+1	+1	+1	+1
2000年10月 山	+2	+2	+2	+2
平均	+2.3	+0.8	+0.8	+0.3
標準偏差	1.3	1.9	1.9	1.7

近畿				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	-1	-2	-2	-2
1997年5月 山	-2	-5	-5	-5
1999年1月 谷	+2	-1	-1	-2
2000年10月 山	+2	+2	+2	+2
平均	+0.3	-1.5	-1.5	-1.8
標準偏差	2.1	2.9	2.9	2.9

中国				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	+3	+2	+2	+3
1997年5月 山	-1	-5	-5	-2
1999年1月 谷	+4	+4	+4	0
2000年10月 山	-2	+2	+2	+2
平均	+1.0	+0.8	+0.8	+0.8
標準偏差	2.9	3.9	3.9	2.2

四国				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	+3	-3	-3	+3
1997年5月 山	+2	-2	-2	-2
1999年1月 谷	-1	-1	-1	-2
2000年10月 山	+3	+2	+2	+3
平均	+1.8	-1.0	-1.0	+0.5
標準偏差	1.9	2.2	2.2	2.9

九州				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	-1	-3	-3	-3
1997年5月 山	+4	-5	-5	-5
1999年1月 谷	0	0	0	0
2000年10月 山	+2	+2	+2	+2
平均	+1.3	-1.5	-1.5	-1.5
標準偏差	2.2	3.1	3.1	3.1

沖縄				
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
1993年10月 谷	-5	-4	-5	-3
1997年5月 山	+2	-5	-5	+2
1999年1月 谷	-1	0	0	-1
2000年10月 山	-4	-4	-4	+2
平均	-2.0	-3.3	-3.5	+0.0
標準偏差	3.2	2.2	2.4	2.4